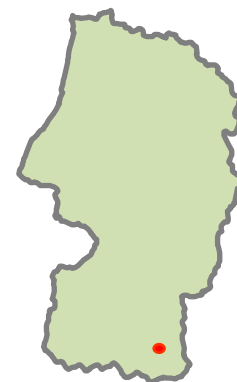


＜施設概要＞

- 施設管理者：水土里ネット米沢平野（米沢平野土地改良区）
- 施設名称：水窪ダム発電所（山形県米沢市大字関根）
- 発電設備：発電所建屋、横軸フランシス水車、横軸三相交流発電機、発電制御盤ほか
- 有効落差：50.4m
- 建設費：約636百万円
- 運転開始時期：平成28年4月
- 発電出力：798kW（最大）
- 年間発電量：3,898MWh（約1,200世帯分）
- FIT 売電単価：29円／kWh



施設全景

＜取組の経緯・概要＞

- 東日本大震災を契機としたエネルギー自給意識の高まりと固定価格買取制度（FIT）の開始をきっかけに、土地改良区全体の維持管理費の軽減を図るため、水窪ダムの改修※とともに、ダム直下（約400m）に小水力発電所を設置※。（※東北農政局（国営米沢平野二期農業水利事業）と山形県企業局との共同による事業で改修・整備）
- 水窪ダム発電所は、ダムの取水塔周囲に設置した網場でゴミ（落葉、小枝等）の流入を防いだ安定した水量と大きな落差により、安定的に発電。
- 発電後の水は西幹線用水路に排出された後、東西分水工を経て東幹線用水路にも流入し、米沢平野に広がる農地（米沢市、南陽市、高畠町、川西町）に用水を供給。
- 発電所の運転・操作は土地改良区事務所に併設する中央管理所の遠方監視装置で実施。
- 毎日、発電所の巡回点検を行うとともに、定期的に設備メンテナンスを実施。
- 発電した電気は発電所内で活用するとともに固定価格買取制度（FIT）により東北電力ネットワークへ売電。
- 売電収入は、土地改良区内の農業用水利施設などの維持管理費などに活用し、農家負担の軽減に貢献。

小水力発電所の水源と発電までの流れ

